

竹駒稲荷神社

摂田屋地区の稲荷神社の入り口には、他の稲荷神社の様にキツネのペアがいますが、通常の雌キツネの代わりに、雌キツネとその子の像があります。

神道において、稲荷は稲作にまつわり、五穀豊穡と地域を災害から守る神様です。狐は神の使いであり、自然の中で見かけたら稲荷のお告げではないかと言われています。そのため、稲荷神社の外には狐の像が立っていて、境内の他の場所にも目立つようになっています。

何気なく見ている方からは、子供を守る母親を表している像ではないかと思うかもしれません。しかし専門家は、実は逆の意味であると指摘しています。子供が母親を見て「大人になったら、私が守ってあげる」と言っていると。この親子の関係は、他の神社や日本社会全般に通じるテーマです。年を重ねるごとに親の面倒を見るのは、若い世代の大切な責任です。その点で、神社は子供たちに大切なことを教えてくれています。

竹駒稲荷神社は、その変わった佇まいが地域の誇りとなっています。その美しさだけでなく、神社は当然のことながら、深い精神的な意味を保持しています。祈願する人には幸運、五穀豊穡、商売繁盛などが待っているとされています。